

東日本大震災における日本の災害時鍼灸医療の実態

嶺 聡一郎¹⁾²⁾

1) 社会鍼灸学研究会、2) 名古屋医専

【はじめに】

今回の東日本大震災とそれに伴う津波による被災地では、数多くの医療支援が行われた。

鍼灸界からも、あんま指圧マッサージ免許保持者も含め、団体、個人を問わず被災地ならびに後方避難地で医療活動が展開された。

本調査では、今回の震災における鍼灸による支援活動を「災害時鍼灸医療」と規定し、現代日本社会において鍼灸が災害時にどのような機能を果たせるのか、どのような限界があるのか、今後の災害においてより有効な支援を行うにはどのような方法があるのかを考察する基礎資料とするため、アンケートを行った。

【目的】

東日本大震災による被害に対して日本の鍼灸医療がどのような活動を展開したかを調査し、日本社会において災害時に鍼灸が果たす機能と限界を明らかにするための基礎資料を収集し、報告する。

【調査概要】

1. 対象

2011年3/11以降に鍼灸治療を用いた被災地支援活動を行い、以下の条件を満たしている団体、およびグループ。

- ・1回の活動期間またはトータルの継続活動期間が5日以上
- ・被災地での活動を行っている

2. 方法

(1) 対象抽出

1) インターネットによる対象サンプリングと情報収集

インターネット検索により対象サンプリングおよび情報収集を行い対象を抽出した。検索サイトはグーグル

(<http://www.google.co.jp>)を使用し、検索キーワードは【東日本大震災 鍼灸 ボランティア 現地活動 医療支援 団体】とした。

2) インフォーマントからの情報提供

インターネットでの調査と並行して全日本鍼灸学会等での告知を通じ、鍼灸による被災支援活動についての情報を知る人達をインフォーマントとして情報提供を求め対象を抽出した。

(2) 調査方法

調査対象となった団体に調査協力を依頼し、電子メールによりアンケートを送付した。

アンケート項目は原則として統一したが、活動の実態を明らかにすることを最優先に、適宜変更を加えた。

アンケート項目は以下の通りである。

- 活動場所
- 活動期間
- 治療対象
- のべ治療人数(7/11時点)
- のべ参加治療者数(7/11時点)
- どのような症状が多かったか
- 他の医療関係者、医療関係機関との連携の有無、連携のある場合は連携先ないし連携職種をおしえてください。
- 地元での受け入れ組織および地元自治体、自治体外郭団体との連携の有無、連携のある場合は連携先を教えてください。
- 活動して良かった事
- 活動して困難を感じたこと
- 感じた問題点と今後の課題
- 活動しての感想、伝えたいことなど

【結果】

本稿ではアンケート項目 a. ~h. に関する調査結果を明らかにする。

今回の調査結果からは以下のことが判明した。

1. 活動主体の形態

活動主体の形態は、以下の3つが確認された。

1) 既存団体(表1)

鍼灸師会や震災以前から何らかのボランティア活動をしていたなど、既存かつ組織化され

ている団体

2) 新たに組織化された団体(表 1)

今回の震災における被災地支援を目的に、新たに組織化された団体

3) 組織化されていない団体(表 2)

被災地支援を目的とした団体で組織化はされていない

なお、「組織化」の基準は以下の 2 点とした。

- ・ 活動場所、活動人員の継続的調整が行われている
- ・ 活動参加者への継続的現地情報提供が行われている

2. 活動地域

活動地域は福島、宮城、岩手 3 県で、宮城、岩手では沿岸部に集中した(図 1)。

具体的な活動現場は避難所、被災者個人宅、行政施設、消防施設、福祉施設に及んでいる。

3. 活動期間

最も早い活動は 3/17 より始まり、2011 年 8 月 20 日時点で継続中のものもある。

4. 治療対象

治療対象は被災者した避難者以外に、避難所、行政、消防等の職員、避難所ボランティア、現地医療スタッフも含まれている。

5. 医療連携

他の医療職との連携は、活動自体が多種の医療職種で構成されているもの以外は、避難所医療スタッフとの連携が中心だった。医療連携のない活動もあった。

6. 地域連携

活動地での医療職以外との連携は、現地自治体、社会福祉協議会、ボランティアセンターが中心だったが、フリーアンサー欄からは医療ボランティア受入れの窓口が一定せず、避難所単位で直接交渉した活動もあったことが確認された。

7. 多かった主訴

患者の症状として、どの団体でも肩こり、頸肩部の疼痛、腰痛が共通していた。その他にも便秘、不眠といった症状もみられた(表 3)。

【結論】

以上の結果から、東日本大震災における災害時鍼灸医療の活動主体の形態としては、既存団体、被災地支援を目的として組織化された団

体、被災地支援を目的としているが組織化されていない団体が被災地活動を行ったことが確認された。

活動期間は、最も早くは 3/17 に始まり、8/20 現在も継続しているものも存在した。

活動場所は福島県、宮城県、岩手県で、宮城県と岩手県では津波被災地域に集中していた。具体的活動場所は避難所のみならず、個人宅、行政施設、消防施設、福祉施設に及んでいた。

治療は被災者、避難所、行政、消防等の職員、ボランティア、現地医療スタッフが対象となった。

医療連携は活動が多種の医療職で構成されているもの以外では、避難所医療スタッフが挙げられた。

地域連携は自治体、社会福祉協議会およびボランティアセンターが中心だが、避難所単位で直接交渉する場合もあった。

主訴としては肩こり、頸肩部の疼痛、腰痛が共通してみられた他、不眠、便秘の訴えもみられた。

【おわりに】

規模としては戦後最大と言われる東日本大震災において、鍼灸が医療としてどのような役割を果たしたかは今なお測深し難い。また、時間経過や地域により異なる被災地の状況やニーズに対して、鍼灸が被災地に資する何事を成し得たのかは今後の検証が必要である。

また、今回の調査対象としなかった小規模・単発の活動も含め日本の鍼灸界が今回の震災においてどのように機能したのか、更なる調査が俟たれる。

【付記】

東日本大震災翌日の夜半、長野県北部でも直下型地震が起こり、長野-新潟県境の自治体が大きな被害を受けた。中でも長野県栄村は全村民が避難対象となる激甚な被害を受け、長野県鍼灸師会は被災者支援を行った。

同時期に起きた災害への災害時鍼灸医療として、その活動を報告する(表 4)。

謝辞と弔意

東日本大震災で犠牲になられた方々とそのご家族、被災された方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

また、本調査には以下の方々にご協力をいただきました(表 5)。ここにお礼を申し上げます。

表1 組織化された団体

団体名	活動場所	活動期間	治療対象	のべ治療人数	のべ参加治療者数	どのような症状が多かったか	他の医療関係者、医療関係機関との連携	地元での受け入れ組織および自治体、自治体外部団体との連携	備考
災害鍼灸マッサー・ジブロシエ・カ	岩手市 釜石市 気仙沼市 (PCATよりの派 連立制による) 石巻市 (PCATよりの派 連立制による)	2011/3/26~5/7(岩手市) 4/6~5/12(釜石市) 4/18~5/11(気仙沼市) 5/1~6/30(石巻市) 5/28~(南三陸町 8/20現在継続中) 7/17~(石巻市8/20現在継続中)	避難所避難者 避難所職員 市職員 消防隊員 病院職員	3878名 (7/1時点)	556名 (7/8時点)	肩こり・腰痛などの整形外科 病が圧倒的多数 初期の症例の避難所では、不 眠、便秘も多数	プライマリーケア連合学会 (PCAT) 避難所保健師チーム	各市町役場 各市町社会福祉協議会 (PCATと協働の石巻・気仙沼は 除く)	今回の震災支援を目的に発足
福島県鍼灸師会	郡山市 いわき市 金沢孝松市 小野町 福島市	2011/3/17~6/19	避難所避難者 避難所の役員 関係者	1034名 (6/19時点)	289名(6/19時点) <内訳> 福島県鍼灸師会 199名 他県の日本鍼灸師会 会員14名 その他(あはき師)6名 他職種20名 鍼灸学生11名	痛み、こり、動だるさ、冷え、つっ ぱり感、不眠、便秘、風邪、食欲不振 部位別では頸肩腕>頭頸部>過七 下肢(膝以外)>膝>肘腕>その他	なし	川内村・喜岡町の救護所 (両役場と共同でラケットふくし まへ一時移転) く以下ボランティア受け入れ窓口 として いわき市市民協働課 金沢孝松市社会福祉協議会 福島市社会福祉協議会 小野町社会福祉協議会	被災した地元鍼灸師も参加
東北大学病院 漢方内 科	会津坂下町 石巻市	2011/3月下旬から6月	避難所避難者	約600名	25名	首肩腰の疼痛、足のむくみ、不 眠、便秘など	東北大学病院、長野と静岡の DMAT	石巻市 七ヶ浜保健住宅は、NPO法人 七ヶ浜町応急仮設住宅サポート センター	東北大学病院による医療支援と して活動
AMDA	大槻町	2011/3/28~8/20現在継続中)	避難所避難者 自宅にいる被災 者	304名 (6月末時点)	5名 <内訳> 派遣鍼灸師2名 地元鍼灸師1名 派遣医師 2名	腰痛、肩こりを合わせて44%、膝 痛以外の疼痛症が41%、 他に全身倦怠感、不眠、NPS、 喘息など、30%が災害に関連して 症状が出現。	AMDA (医師 系医師 助産師 進香 看護師 薬剤師、臨床心理士 調整員、介護士を含む)	大槻町 大槻町内会	医療支援NPO団体に明後国際 医療大学が協力
東京路上鍼灸チーム	相馬市 山元町	2011/4/16~6/12 (相馬市 毎週日曜日 計10回) 2011/5/22~8/20現在継続中) (山元町8/20現在継続中)	避難所避難者 避難所周辺の 被災者 被災者職員 避難所ボラン ティア	322名	87名	肩痛、肩こりを合わせて44.1%、 腰痛42.5%、膝痛19.9%、頸部痛 10.2%、 山元町では1/3が腰痛を訴え る。	なし	相馬市社会福祉協議会 山元町ボランティアセンター	路上生活者へのボランティア総 括を行っていた グループが母体

表2 組織化されていない団体

団体名	活動場所	活動期間	治療対象	のべ治療人数	のべ参加治療者数	どのような症状が多かったか	他の医療関係者、医療関係機関との連携	地元での受け入れ組織および自治体、自治体外部団体との連携	備考
北海道ハイテクノロジー 専門学校 災害看護鍼灸・鍼灸ボラ ンティアチーム	気仙沼市 大船渡市	2011/4/30~5/5	被災者 市役所職員	30名	10名 <内訳> 鍼灸師6名 派遣看護師4名	肩こり、腰痛	他の医療関係者、 医療関係機関との連携	気仙沼市 大船渡市ボランティアクラブ	学校教員、卒業生を中心として 構成。
滋賀県鍼灸師会 花田学園同窓生有志	石巻市 女川町	2011/4/28~5/7	避難所避難者 自宅(避難者) 避難所職員	383名	9名(うち1名マネージ メント職員)	調査不足により回答を得られず	避難所保健師 避難所常駐看護師 避難所常駐医師	石巻市ボランティアセンター	滋賀県鍼灸師会の有志に花田 学園卒業生有志が加わり活動。
進賢鍼灸先生チーム	石巻市	6/3~6/6 7/15~7/19	避難所避難者	102名 (6/13~6)	3名(6/13~6) (現地ボランティアセン ターマッピングにて、或 く県ボランティアセン ターよりのあんまマッ サー鍼灸師、理学療 法士が現地合流)	調査不足により回答を得られず	避難所保健師 避難所常駐看護師 避難所常駐医師	石巻市ボランティアセンター	滋賀県鍼灸師会として活動した 鍼灸師を中心とした有志。
鍼灸接骨院TAIチーム	いわき市	2011/4/23~5/22(毎週末)	避難所避難者	56名	6名	全身疲労、不眠、肩こり、 腰痛頭痛、背骨痛、膝痛	なし	なし	治療ベースの活動

東日本大震災におけるボランティア鍼灸治療の展開エリア

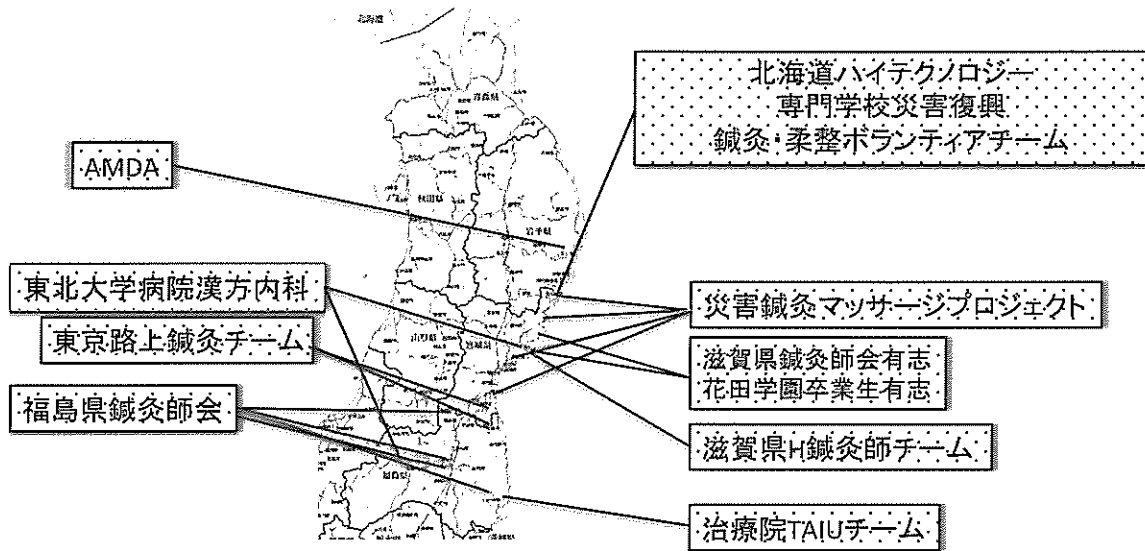


図1 活動地域

表3 どのような症状が多かったか

団体名	どのような症状が多かったか
災害鍼灸マッサージプロジェクト	肩こり・腰痛などの整形外科疾患が圧倒的多数 初期の密集型の避難所では、不眠、便秘も多数
福島県鍼灸師会	痛み、こり、重だるさ、冷え、つっぱり感、不眠、便秘、 風邪、食欲不振 部位別では腰臀部>頸肩部>下肢(膝以外)>膝> 上肢>その他
東北大学病院 漢方内科	首肩腰の疼痛、足のむくみ、不眠、便秘など
AMDA	腰痛、肩こりを合わせて44%。腰部以外の疼痛症状が 41%。 他に全身倦怠感、不眠、MPS、喘息など。 受療車中96%が災害に関連して症状が出現。
東京路上鍼灸チーム	肩痛、肩こりを合わせて44.1%。腰痛42.5%、膝痛 19.9%、頸部痛10.2%。 山元町では1/3が膝痛を訴える。
「北海道ハイテクノロジー専門学校 災害復興鍼灸・柔整ボランティアチーム」	肩こり、腰痛
鍼灸接骨院TAIUチーム	全身疲労・不眠・肩こり・腰痛 頭痛・背部痛・膝痛

表4

団体名	活動場所	活動期間	治療対象	のべ治療人数	のべ参加治療者数	どのような症状が多かったか
長野県鍼灸師会	長野県栄村	2011/3/27 4/3 4/7 4/21	避難所避難者	90名	7名	腰痛 肩こり 頭痛 他に足関節捻挫、膝関節捻挫等、リウマチ性関節炎、変形性膝関節症、五十肩、胸部出口症候群など

表5 調査協力者一覧

(敬称略 五十音順)

AMDA	滋賀県鍼灸師会
飯塚美紀代	滋野恭子
今泉洋平	谷 佳世
今井賢治	谷本 卓也
今村頌平	寺田拓未
上野正博	長野県鍼灸師会
小河原信雄	日比泰広
小野直哉	福島県鍼灸師会
栢之間 理沙	古屋英治
橘川まゆみ	星野文美
小西直之	北海道ハイテクノロジー専門学校災害復興鍼灸・柔整ボランティアチーム
災害鍼灸マッサージプロジェクト	三輪政敬